

平成 28 年度 【 学園研究費助成金 < B > 】 研究成果報告書

学部名 文化情報学部

フリガナ キ ゾウミン
氏名 季 増民

研究期間 平成 28 年度

研究課題名 郊外地域から見た新興国都市化の特質とその背景

研究組織

	氏名	学部	職位
研究代表者	同上		
研究分担者			
研究分担者			

1. 本研究開始の背景や目的等 (200 字～300 字程度で記述)

1990 年代以降、アジア新興国の急激な都市化は、その結果を郊外地域の土地利用・景観と地域構造・社会生活に深く刻印している。「住民行動」と「空間」は一体不可分な関係にあるため、生活者の所為（経済活動・生活・ライフデザイン）と郊外地域への投影・軌跡を一体的に結びつける統合型学際研究方法の確立が、郊外地域研究の深化を図る上で大きな突破口であり、課題となっている。本研究の目的は、新興国を対象とし、都市と農村の双方を両にらみしつつ、郊外におけるカナメとなる生活圏である村（RW）単位で異質住民の混住・土地利用の混在による郊外地域の「シェア」実態と変遷を実証的に解明する。

2. 研究方法等 (300 字程度で記述)

①自己形成、学歴取得、就職、生得的家族から獲得的家族へ、子育て、老後といった、住民のライフコースのそれぞれの分岐点を繋ぐ人生軌跡に、空間変遷軌跡（住宅利用と変動）を重ねてクロス集計を行う。②その結果にさらに、新住民の故郷離脱プロセス（故郷にある土地請負権利の賃貸・譲渡、故郷在住の子供・両親・兄弟を移転先に呼び寄せる、故郷の不動産及び家財道具の処分、戸籍の移動など）を加える。③このような分析プロセスを経れば、地方農民から郊外という過渡地域を経て都市生活者へと変質していく過程を時空間的に際だたせることができる。④また各人が歩むライフコースと、それを規定する（影響を与える）要因との関係、その投影としての空間軌跡（住宅利用と変動）も解明する。

3. 研究成果の概要 (600字～800字程度で記述)

本研究では、郊外地域における地付き農民、内陸から移住してきた新住民(以下新住民と略す)、市民が転入後の住み分け、住み替えを、住宅の使用・所有変化と併せて可視化する。また、郊外地域に形成される住民の生活圏をアンケートにより明らかにする。両結果のクロスにより異質住民の混住による郊外地域の「シェア」実態と変遷を解明し、郊外地域モデルの作成を試みた。

新住民が日常的に暮らす、「集住社区」という、実質的な生活空間に焦点を当て、詳細な考察を実施した。

①住宅はその時々々の社会・経済状況を踏まえた住民の最適選択を表している。具体的には、自らの属性(年齢や学歴等)と生活条件(経済、社会)に適した住民の「住み分け」、ライフステージ(結婚、育児等)の高まりに伴う住民の「住み替え」が地面に投影された空間軌跡を質問票で特定し、郊外地域における土地利用、生活環境等の変化と連動させて3年ごと考察する。それに転出入資料の解析、意向調査の分析、ライフヒストリーの聞き書きの結果を加える。この三位一体的な手法を駆使することにより、表層から深層へと重層的に生活軌跡を交錯させながら郊外地域像を立体的に描き出す。

②住居を紐帯とする地付き農民の在郷市民化と新住民の異郷市民化を相関させながら時空間的に解明する。

③中国江蘇省昆山市については、郊外地域に暮らす地元農民二世帯、新住民二世帯、新住民の定住者、周辺町村からの定住者、市街地から移住者に対し、連続的な意向調査を実施し、その結果の一部を、下記の研究成果1)にまとめた。

一方、新住民の異郷市民化プロセスについては、永住農民工の生活実態と意向調査を通じて明らかにし、その結果の一部を、下記の研究成果2)にまとめた。

4. キーワード (本研究のキーワードを1以上8以内で記載)

①新興国	②都市化	③地誌学	④郊外地域再編
⑤アンケート	⑥	⑦	⑧

5. 研究成果及び今後の展望 (公開した研究成果、今後の研究成果公開予定・方法等について記載すること。既に公開したものについては次の通り記載すること。著書は、著者名、書名、頁数、発行年月日、出版社名を記載。論文は、著書名、題名、掲載誌名、発行年、巻・号・頁を記載。学会発表は発表者名、発表標題、学会名、発表年月日を記載。著者名、発表者名が多い場合には主な者を記載し、他〇名等で省略可。発表数が多い場合には代表的なもののみ数件を記載。)

1) 季増民 (2017) : 開発下の都市周辺地域地付き農民の生活変化と将来設計—江蘇省昆山市における意向調査に基づく考察—、「湄山女学園大学文化情報学部紀要」第16巻、2016(29年3月)、pp.41-64、掲載決定

2) 季増民 (2017) : 永住農民工の生活実態と意向調査から見た郊外地域の変貌、「湄山女学園大学研究論集」第48号、社会科学篇、(29年3月)、投稿中、掲載決定